府立泉北高等学校
校長　猿田　茂

平成 24 年度　学校経営計画及び学校評価

1　めざす学校像

1　文武両道をめざす高校
高い志をもち、幅広い教養を身に付けると共に他人を思う心を育む。また、特別活動や部活動をとおして逞しい実行力、実践力を養う。
2　キャリアガイダンスの充実した進学校
多様な進路に関する情報を提供することによって明確な進路目標をもたせ、その目標へ向けての学習活動によって進路希望の実現へと導く。
3　国際文化科と総合科学科という特色ある学科を基本とし進化を続ける高校
専門学科の利点を生かし、時代の要請に応じた新しい取組みを進めていく。

2　中期的目標

1　確かな学力への取組み
（1）専門高校としての特徴を活かした教育課程の編成と、両科の強みを相互に活かす教育活動の展開を目指す。
ア　授業力アップのために、授業アンケートを活用すると同時に、校内外に対して公開研究授業を行う。
イ　生徒の自学自習をサポートする方法を考えて、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。図書館等を利用し自習環境を構築するとともに、自習方法等を身につけるような導入指導を工夫する。
（2）英語教育の充実
ア　「使える英語プロジェクト G3」校として、生徒の英語運用能力の向上の為の教材作りや教育課程を工夫する。
イ　総合科学科の生徒の英語発表能力を向上させ、世界で活躍できる科学人材作りを目指す。
ウ　英語検定や TOEIC などの資格試験にチャレンジする生徒を増やし、その得点を向上させる為の講座を開く。
（3）理数教育の充実
ア　スーパーサイエンスハイスクール事業について２期目５年間の指定をめざす。これまでの成果を今後の在校生に対しても実践していくと共に、更に深めた取組みを行う。
イ　五感で体得する理科授業を目指し、多くの実験実習を取り入れると共に、それを活かす教材を開発する。
ウ　高大連携、大学訪問研修等を継続し、学問世界に触れることで、生徒の学習意欲を高める。
※授業評価アンケートにおける、「授業理解度」を現在全学年平均で 62.7%であるのを、3 年後には 70%を目指す。そのために年 2 回実施して、授業改善の工夫の資料とする。実験・実習の割合を理科全授業の 50%以上で実施する。科学系コンテストに応募して、3 年間で 2 件以上の入賞を目指す。高大連携・大学訪問については、年間 30 講座を維持すると同時に、生徒の満足度 80%以上を目指す。英語については、TOEIC BRIDGE の平均点を、両学科とも 3 年間で 10 点向上した文化科 148 点、科学科 125 点を目指す。
2　進路指導の充実
（1）３年間の学習の成果とも言える一人ひとりの生徒の進路実現について、学校としての取組みを明確にしながら進める。
ア　進路情報の的確な提供と、進路選択のきめ細かい指導を行う。進路講話の実施等、早期からのキャリア教育の充実を図る。
イ　進路を獲得する学力を付ける為の、補習を計画的に実施する。
※進路講話等キャリア意識形成につながる LHR を、1・2 年次に 5 回以上開催する。センター試験の受験者を、150 名以上とし、900 点受験者を増加させる。国公立大学現役進学者を 25 名以上とする。
3　開かれた学校作り
（1）学校の特色や活動について幅広く情報発信をすると共に、地域との連携を進め、「地域のセンター」としての機能を果たす。
ア　校務分掌としての広報部を作り、いろいろなメディアでの情報発信、また、学校説明会・地域に出かける出前説明会・体験入学を更に充実させる共に、開催案内を徹底させ、多くの中学生に実際に体験してもらう。
イ　小中学生対象の科学講座・英語講座を実施して、地域の教育の中核校として認知してもらう。
※学校説明会の参加者を、生徒・保護者合わせて 1000 名以上とし、中学訪問・出前説明会の 2 回以上開催することにより、中学校の担当者・中学生・保護者たちと直接出会う機会を増やす。HP の更新を、毎週 1 回行う。「専門学科の特徴を知って入学する」生徒を 90%以上にする。
4　活気と規律のある学校生活
（1）一人ひとりの生徒を大切にすると共に生徒全体の向上をめざす。
ア　個別に対応が必要な生徒への指導について、組織的な体制を整備する。
イ　部活動参加者の増加を目指すと同時に学校行事など特別教育活動の充実を図る。また、部活動と学習の両立ができる生徒を育成する。
※自己診断等で「部活動と学習の両立が出来ている」と答える生徒が、40%に満たないが、26 年度には 60%以上になるようにする。部活動参加率 85%を目指す。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］	学校協議会における提言内容

府立泉北高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	（１）専門高校としての特徴を活かした教育課程の編成と、両科の強みを相互に活かす教育活動の展開 ア　授業力アップのために、授業アンケートや研究授業行う。 イ　生徒の自ら学ぶ力を高める。自習環境を構築するとともに、自習方法等を身につけるような導入指導を工夫する。	ア・授業力アップを目指す検討チームを首席を中心に立ちあげ、教務部・進路部と連携して対策を講じる。 ・授業アンケートを年２回実施する。 ・研究授業及び合評会を、各教科年１回開催。 ・参観、公開授業を年３回以上実施する。 イ・学習時間調査を定期的に行い生徒の学習実態を把握する。 ・家庭学習のさせ方を教務部に PT を作り検討する。 ・自習環境について、課題検討委員会を中心に対策を練る。	ア　生徒による授業アンケートの「理解度 65%」、「興味関心 65%」。 イ　研究授業の開催回数と参加教員数。全教員が最低１回は授業を見学して合評会に参加する。 ウ　公開授業・授業参観の参加人数を 50 名以上。 エ　「予習復習をよくする」生徒の割合が 70%以上。	
	（２）英語教育の充実 ア　英語運用能力の向上の為の教材作りや教育課程。 イ　総合科学科の生徒の英語発表能力を向上。 ウ　英語検定や TOEIC などの資格試験にチャレンジする生徒を増やし、その得点を向上させる為の講座を開く。	ア・学校設定科目「GET(Global English Training)」を６限目（放課後）の選択科目として開講すると共に土曜日に特設クラスを開講する。 ・ALT とのティームティーチングにより、英語によるプレゼンンテーション能力の向上。 ・授業を通じて、TOEIC 等の対策を行い、その成績の向上を図る。 ・１・２年生全員に TOEIC BRIDGE を受験。 ・英検受験を積極的にすすめ、２級合格者の増加をめざす。 イ・総合科学科において、専門科目「総合英語」を実施する教育課程にする。TT による「科学英語」を開講して、課題研究等の発表を英語で行う力を付ける。	ア・TOEIC BRIDGE の平均点 140 点（2 年国際文化科）を目標とする。 ・英検の受験者と２級合格者数（40 名）。 イ・総合科学科生徒の、授業アンケートによる授業理解度の向上（70%を目指す）。 ・課題研究の発表において英語を使用する。	
	（３）理数教育の充実 ア　理科で多くの実験実習を取り入れると共に、それを活かす教材を開発。 イ　高大連携、大学訪問研修を実施し、学習意欲を高める。	ア・理科及び数学において、少人数によるきめ細かな指導を行う。 ・理科においては、実験・実習の回数を確保。 ・課題研究については、授業時間及び放課後等を活用し、生徒の自主的な学習活動を支援。 ・課題研究発表会の実施 イ・高大連携講座や大学訪問研修を行い、先端技術に触れる機会を提供する。 ウ・小中学校向け理科講座を実施する。	ア・理科において実験を授業回数の 50%以上実施する。 イ・科学系コンテスト参加生徒数。 ・大学訪問研修を 30 以上の研究室で実施する。 ・小中学校向け理科講座を複数回実施する。	
2 進路指導の充実	ア　進路情報の的確な提供と、進路選択のきめ細かな指導。早期からのキャリア教育の充実。 イ　進路獲得の為の補習。	ア・進路関係 HR の実施時期を早め早期から高い目的意識を持たせる。 ・進路講話・保護者対象進路説明会など様々なチャンネルで情報を提供する。 ・外部模試を積極的に利用し、より多くの生徒が受験するようにする。 イ・平常時・休業中に、全学年共に、進学をめざす補講を実施する。	ア・学校教育自己診断の進路指導に対する生徒満足度 80%以上。 ・センター受験者 130 名、うち 900 点受験者 20 名以上。 ・国公立大学(20 名)及び難関私大現役合格者(100 名)の増加。 イ・進学補講週 3 日実施。	
3 開かれた学校作り	ア　広報部を中心に情報発信、説明会の充実。 イ　小中学生対象の科学講座・英語講座を実施。	ア・説明会開催回数を増加する。体験授業やクラブ体験など、さまざまに学校を体験してもらう機会を提供する。 ・ＨＰの更新頻度を増やし、情報提供を早める ・月刊学校新聞の発行。 ・対中学の広報活動の充実 イ・小中対象の理科・英語出前授業の開催	ア・学校説明会の参加人数 1000 人以上。個別応接説明会開催及び参加回数 10 回。 ・HP を毎週 1 回更新。 ・中学訪問 2 回実施。進学相談会 2 回実施。	
4 活気と規律のある学校生活	ア　個別に対応が必要な生徒への組織的な体制整備。 イ　部活動参加者の増加と特別教育活動の充実。部活動と学習の両立。	ア　・相談室機能の充実と、ケース会議の組織化 ・課題を抱える生徒発見する為の遅刻指導 ・教員のカウンセリング能力の向上 イ　・部活動の活性化の工夫 ・両立を達成する為の方策を進路部・教務部からメンバーを募り PT を作り検討する。	ア・遅刻数の減少（昨年度より５％減）。 ・教員対象の研修会の開催（SC を中心に 2 回） イ・部活参加割合（80%以上）を向上させる ・自己診断アンケートで「部活と学習の両立」の肯定率の 10%向上。 ・生徒の自宅学習時間、平日 1 時間以上。	